

衛生学者坪井次郎業績目録

泉 彪之助

衛生学者坪井次郎は、日本衛生学の草創期に活躍した人で、京都帝国大学の初代医科大学長、京都大学医学部衛生学教室の創設者であった。このような輝かしい経歴にかかわらず、早世により経歴も業績も充分に知られていなかったため、私はその生涯を調査し、先に本誌に発表した「衛生学者坪井次郎の経歴と業績」(本誌三十八卷三号)。しかしその際、紙数の関係で、業績は論文数などを挙げただけで、詳しい業績目録を掲載することができなかった。論文発表後に諸先生から多くの関心が寄せられ、坪井次郎が日本衛生学史上の重要人物であることを痛感した。その業績の内容は重要な問題であると思うので、次郎の業績目録を記載したい。

この目録は、決して完全なものではない。たとえば京都帝国大学時代の業績の収集が不十分であり、また論文邦訳と欧原文著との対比もできていない。しかし主要な業績は把握したと考えており、研究者各位の参考になれば幸いである。

なお著書名は前稿で全部を挙げたので、ここでは省略した。

著 書

(省略)『日本医史学雑誌』三八卷三号掲載「衛生学者坪井次郎の経歴と業績」(参照)

原著、短報、調査報告、綜説

- (一) 「ペプトンノ実験」『東医新誌』四三四号、九七八―九五五頁、明治一九年
- (二) 「土地不潔論」『東医新誌』四四四号、一三二九―一三三四頁、四四七号、一四三五―一四四一頁、明治一九年
- (三) 「日本家屋換気論」『中外医報』一五六号、一―七頁、一五七号、七一―五頁、明治一九年
- (四) 「プトマイン実験説」『東医新誌』四五五号、一七二三―一七二七頁、四五六号、一七五七―一七六二頁、明治一九年、四六一号、一四五―一五一頁、明治二〇年
- (五) 「地中炭酸之説、付糞室実験」『東医会誌』一卷二号、七八―八二頁、明治二〇年
- (六) 「釀母ノ説」『東医会誌』一卷三号、一二八―一三四頁、二三六―二四〇頁、明治二〇年
- (七) 「人体腸中細菌ノ定量」『東医新誌』四六七号、三五七―三六二頁、四六八号、三九五―三九九頁、明治二〇年
- (八) 「日本食品中芽生細菌ノ所在」『東医新誌』四九三号、三五九―三六四頁、明治二〇年

(九)「食用蕈菌説」『東医新誌』五〇三号、七五一―七五五頁、五〇四号、七九五―七九九頁、明治二〇年

(二〇)「麴ノ説」『東医会誌』一卷三号、一二二―一二四頁、四号、一七八―一八一頁、五号、二五一―二五五頁、明治二二年

(二一)「食物調査ノ成績」『東医会誌』二卷一二号、六一―六三頁、一四号、七三一―七四二頁、一七号、九〇―一九〇五頁、明治二二年、三卷一号、三一―四三頁、三卷二三号、一三五―一三五九頁、明治二二年

(二二)「味噌ノ含窒物」『東医会誌』二卷一八号、九五―一二頁、明治二二年

(二三)「発光黴菌ノ説」『東医新誌』五一五号、一八九―一九三頁、五一六号、二三八―二四三頁、五一七号、二七三―二七八頁、明治二二年

(二四)「地面空気が炭酸説」『中外医報』一八八号、五九―六一頁、明治二二年

(二五)「黴菌染色法」『国政医学会雑誌』一九号、一一五頁、明治二二年

(二六)「生鯉節中『プトマイン』ノ実験」『東医会誌』三卷三三―三三二頁、明治二二年

(二七)「帝国大学下水実験成績」『東医会誌』三卷三号、一五九―一六四頁、明治二二年

(二八)「帝国大学下水実験成績」『官報』一月二六日、明治二二年?

(一九)「櫛ノ実ノ話」『東医会誌』三卷七号、三六〇―三六三頁、明治二二年

(二〇)「麻拉里垂寄生物ト回帰熱寄生物トノ類似説」『東医会誌』三卷一〇号、五九五―五九七頁、明治二二年(抄録?)

(二一)「破傷風ノ説」『東医会誌』三卷一二号、六〇―六一頁、五頁、明治二二年(抄録?)

(二二)「医科大学第壹医院ノ患者ニ与フル粥汁ノ分析」『東医会誌』三卷一四号、八二七―八二八頁、明治二二年

(二三)「厨用魚貝調査成績」『東医会誌』三卷一五号、八九五―八九六頁、明治二二年

(二四)「餅ノ消化試験」『東医会誌』三卷一八号、一〇五一―一〇五三頁、明治二二年

(二五)「墓壙中ノ土分析」『東医会誌』三卷一九号、一一一―一一三頁、明治二二年

(二六)「鉾山衛生」『東医会誌』三卷二四号、一三九―一四三頁、明治二二年

(二七)「医学ニ於ケル写真術ノ効用」『東医新誌』五六七号、一九八―二〇一頁、明治二二年

(二八)「豆類ノ説」『中外医報』二一九号、四四九―四五二頁、明治二二年

(二九)「牛乳試験法」『国政医学会雑誌』二二二号、九―一四頁、明治二二年

(三〇)「日本菓子ノ説」『大日本私立衛生会雑誌』七九号、九

五三一—九六二頁、明治二二年

(三二)「防火衣服」『東医会誌』四卷一三三號、七六四—七六五頁、明治二二年

(三三)「流行性感冒ニツイテ」『中外医報』二四二號、四〇一—四〇三頁、明治二二年

(三四)「塵埃吸引病」『国家医学会雜誌』三〇號、明治二二年(頁不詳)

(三五)「黴菌ハ裁判医学鑑定ノ障害物ナリ」『裁判医学会雜誌』二二號、明治二二年(頁不詳)

(三六)「坪井次郎・村田豊作」『帝国大学寄宿舎食物実験成績』

『帝国大学紀要医科』一卷四號、明治二四年(頁不詳)

(三七)「動物体ニ於ケル急性尿閉ノ影響ニ就テ」『帝国大学紀要医科』七卷二號、(年度、頁不詳)

(三八)「日本ニ於ケル糖尿病ノ統計」『帝国大学紀要医科』七卷二號、(年度、頁不詳)

(三九)「『ケモタキシス』ニ就テ」『中外医報』二八四號、五七—六一頁、二八五號、一二七—一三〇頁、二八六號、一八七—一九二頁、明治二五年

(四〇)「エンメリヒ・坪井次郎：血液中免疫及治療物質ノ本性ニ就テ」(邦訳文)『中外医報』二九九號、九〇—五—九〇七頁、三〇二號、一〇九二—一〇九四頁、三〇六號、一三三—一三三—一三五頁、明治二五年、三〇九號、一四九—一五二頁、明治二六年

(四一)「Tsuboi, J.: Untersuchungen über die natürliche

Ventilation in einigen Gebäuden von München, Arch. f. Hygiene 17: 665-676, 1893

(四二)「Emmerich, R. und Tsuboi, J.: Die Cholera asiatica eine durch die Choleraabazillen verursachte Nitritvergiftung, Münch. med. Wchr. 40 (25):473-477, (26):497-501, 1893

(四三)「Emmerich, R. und Tsuboi, J.: Ist die Nitritbildung der Choleraabazillen von wesentlicher Bedeutung für das Zustandekommen der Cholera?, Münch. med. Wchr. 40 (32):602-605, 1893

(四四)「エンメリヒ・坪井次郎：虎列刺病—虎列刺桿菌ニ因由スル亜硝酸中毒」(邦訳文)『中外医報』三三三號、九九—一〇〇二頁、三三四號、一〇八〇—一〇八五頁、三三五號、一一三八—一四二頁、三三七號、一二七三—一二七七頁、三三〇號、一四七四—一四八二頁、明治二六年

(四五)「エンメリヒ・坪井次郎：亜細亜虎烈刺ハ虎烈刺ニ基因スル亜硝酸中毒也」『済生学舎医事新報』九號、一五—二三頁、一〇號、四〇—四四頁、明治二六年

(四六)「エンメリヒ・坪井次郎：亜細亜虎烈刺ハ虎烈刺「バチレン」ニ因リ産生セラレタル亜硝酸塩中毒ナルノ説」(邦訳文)『東医新誌』八〇五號、二一六—二一六六頁、八〇六號、二二二—二二三四頁、八〇七號、二二六〇—二二六三頁、八〇八號、二二〇三—二二〇三

五頁、八〇九号、二三三—二三四六頁、八一—一〇一頁、

二四三—二四三五頁、八一—一〇一頁、二五二—二五三

〇頁、八一—一〇一頁、二六〇—二六一〇頁、八一—一〇一頁、

二七四—二七四七頁、八二—一〇一頁、二八七—二八七

九頁、明治二六年、八二五号、一一—一〇一頁、明治二七年

(四六)「エンメリッヒ、坪井次郎：虎列刺『パチルレン』ノ

亜硝酸塩ヲ生成スル作用ハ虎列刺ノ發生ニ重要ナ価値

アルヤ」(邦訳文)『東医新誌』八二三号、二八—二九頁、

八二六号、一四八—一五二頁、八二七号、二〇四—二

〇五頁、八二八号、二五二—二五五頁、明治二七年

(四七)「エンメリヒ・坪井次郎：虎列刺菌ノ亜硝酸塩類ヲ化

成スルハ虎列刺病ノ發生ニ緊切ナルヤ否ヤヲ論ジテク

レンペレル氏ノ駁論ニ答ウ」(邦訳文)『中外医報』三三

二号、六五—六八頁、三三三—三三三、一四六—一五〇頁、

(四八)「エンメリッヒ、坪井次郎ほか(岡田和一郎訳)：丹毒

血清ニ由ル脾脱疽ノ治療ナラビニ癌腫及其他ノ悪性腫

瘍狼瘡結核梅毒等ノ原因的療法ニツイテノ立案」

『東医新誌』八六〇号、一七二—一七三〇頁、八六

二号、一八二—一八二六頁、八六四号、一九二—

一九二四頁、八六七号、一九四七—一九五〇頁、明治

二七年

(四九)「丹毒球状黴菌毒性保存法」『東医会誌』九卷四号、一

四一—一四二頁、明治二八年

(五〇)「血清殺黴作用ノ原因論」『中外医報』三五九号、二五

七—二五九頁、三六〇号、三三〇—三三三頁、三六三

号、五二九—五三一頁、明治二八年

(五一)「黴菌培養基ノ製造法ニ就テ」『東医会誌』一〇卷一九

号、一〇—一〇一頁、明治二九年

(五二)「フォルマリン」ニ就テ」『中外医報』三九七号、一

一〇四頁、明治二九年

(五三)「菓子ノ説」『国家医学會雜誌』一一—一〇一—一二

頁、明治二九年

(五四)「第四回内閣勸業博覽會出品製造及貯藏食品並ニ飲料

審査ノ大要」『大日本私立衛生會雜誌』一五五号、二七

五—二八四頁、明治二九年

(五五)「胃ノ生理作用ニ就テ」『順天堂医事研究会雜誌』二三

五号、明治二九年(頁不詳)

(五六)坪井次郎、辻谷幾藏「丹毒菌及ビ虎列刺菌ノ貯藏法ニ

就テ」『東医会誌』一二卷一八号、八〇五—八〇八頁、

明治三一年、『済生学舎医事新報』七〇号、八七六—八

七九頁、明治三一年

(五七)「台湾ノ家畜ニツイテ」『東医会誌』一二卷二二号、一

〇〇〇—一〇〇二頁、明治三一年

(五八)「足尾銅山ノ砒毒ニ就テ」『東医会誌』一二卷二三号、

一〇〇五—一〇一二頁、一二卷二四号、一〇五三—一

〇六〇頁、明治三一年

(五九)「防火法」『大日本私立衛生会雑誌』一八四号、四八一—四八九頁、一八五号、五三九—五四五頁、明治三二年

(六〇)「足尾銅山ノ鈹毒ニ就テ」『国家医学会雑誌』一四二・一四三号、一—一四頁、明治三二年

(六一)坪井次郎、辻谷幾蔵、布留幾作「ペスト予防に関する報告」『京都医事衛生誌』九七号、一四—一九頁、明治三五年

(六二)坪井次郎、布留幾作「格魯兒『フォルマリン』亜硫酸瓦斯の鼠族に対する試験」『公衆衛生』二—一、四—一八頁、明治三五年

翻訳、抄訳、通信、紹介文

(一)「大谷産凝灰岩ノ説」、『東医新誌』四六六号、明治二〇年(頁不詳)

(二)「人体腸中黴菌ノ定量」、『東医新誌』四六七号、三五七—三六二頁、四六八号、三九五—三九九頁、明治二〇年

(三)「近世消毒法一般」、『東医新誌』四七六号、六八五—六九〇頁、明治二〇年

(四)「近世虎列刺学説」、『東医新誌』四七九号、八〇—一八〇頁、四八〇号、八三一—八四〇頁、明治二〇年

(五)「創傷強直病因論及虎列刺紅色素ノ説」『東医新誌』四八六号、一〇九—一五頁、四八七号、一四九—一五

七頁、明治二〇年

(六)「地中黴菌ノ実験」『中外医報』一七五号、一—七頁、一七六号、五—八頁、明治二〇年

(七)「交感性眼炎ノ伝染病理」『中外医報』一八二号、一—六頁、一八三号、二—一七頁、一八四号、二—二—六頁、明治二〇年

(八)「欧州浴場ノ景況」『東医会誌』二卷一号、四三—四四頁、明治二一年

(九)「吉見村百穴ノ土塊試験」『東医会誌』二卷五号、二—二—二八四頁、明治二一年

(一〇)「伝染病室消毒法」『東医会誌』二卷七号、三九—三九二頁、明治二一年

(一一)「電中ノ黴菌、植物組織中ノ黴菌」『東医会誌』二卷八号、四五—四五三頁、明治二一年

(一二)「呼出氣ノ毒性」『東医会誌』二卷一〇号、五六〇—五六二頁、明治二一年

(一三)「肺癆ノ死亡数、体中病的糸状黴菌ノ撲滅」『東医会誌』二卷一三号、七一〇—七二二頁、明治二一年

(一四)「健康男子尿道及尿中ナラビニ急性腎炎患者尿中ニ於ケル黴菌説」『東医会誌』二卷一四号、七六三—七六四頁、明治二一年

(一五)「胆汁ノ心臓運動ニ及ボス作用」『東医新誌』五三七号、五〇—五一頁、明治二一年

(一六)「顕微鏡的血液検査ノ新法」『東医新誌』五三七号、五

- 一五二頁、明治二二年
- (一七)「迷走神経ノ尿分泌ニ及ボス作用」『東医新誌』五四〇号、一六〇頁、明治二二年
- (一八)「死体取扱ノ一新奇法」『東医会誌』三卷五号、二八五—二八六頁、明治二二年
- (一九)「炭酸瓦斯ノ下等有機体生活機能ニ及ボス作用」『東医会誌』三卷九号、五三〇—五三一頁、明治二二年
- (二〇)「ペッテンコーフェル：黄熱論」『東医会誌』三卷一九号、一一二七—一一三七頁、明治二二年
- (二一)「病的黴菌ノ変遷」『東医会誌』四卷一五号、八九四頁、明治二二年
- (二二)「肺癆廃叢説」『中外医報』二一七号、三五四—三五八頁、明治二二年
- (二三)「空气中塵埃ノ説」『中外医報』二一九号、四六九—四七三頁、二二〇号、五二八—五三〇頁、二二二号、五八四—五八七頁、明治二二年
- (二四)「ペッテンコーフェル、チームゼン：民賢府ハ健康府ナリ」『東医会誌』四卷二号、九五—九九頁、四卷五号、二五九—二六〇頁、四卷九号、五三七—五三九頁、明治二三年
- (二五)「阿巽殺菌力ノ試験」『東医会誌』四卷一〇号、五八八—五八九頁、明治二三年
- (二六)「生活体内ニ於ケル病的黴菌ノ發育ト労働ノ関係」『東医会誌』四卷、一二号、六九九—七〇〇頁、明治二三年
- 年
- (二七)「事物ノ源因ヲ明ラカニス」『東医新誌』六六九号、一二三一—一二七頁、明治二四年
- (二八)「コッホ氏治結核葉彙報」『東医新誌』六七一号、特報一二頁、明治二四年
- (二九)「コッホ氏液彙報」『東医新誌』六七二号、一一三頁、明治二四年
- (三〇)「喉頭結核ノ治療」『東医新誌』六七二号、二三一—二四頁、明治二四年
- (三一)「結核治療法ノ続稿(コッホ氏薬液ノ造構)」『東医新誌』六七五号、一一五頁、明治二四年
- (三二)「コッホ氏結核療法彙報」『東医新誌』六七七号、特報一—四頁、六七八号、特報一—二頁、明治二四年
- (三三)「悪性腫瘍ノ毒性」『東医新誌』六七八号、四六四頁、明治二四年
- (三四)「エンメリツヒ：免疫ノ源因、伝染病特ニ家猪ノ丹毒治癒及病ニ対スル新接種予防法」『東医新誌』六九九号、一三一—一三四頁、七〇〇号、一三五—一三五九頁、七〇二号、一四四—一四四七頁、七〇四号、一五四—一五四五頁、明治二四年
- (三五)「一七回ドイツ公衆衛生学会」『東医新誌』七一二号、一九三—一九三四頁、明治二四年
- (三六)「フェーラー氏ノ開会演説」『東医新誌』七一二号、一九七—一九八三頁、明治二四年

(三七)「消毒法」『東医新誌』七〇九号、一七七四—一七七五頁、明治二十四年

(三八)「ドイツ国医学及万有学会」『東医新誌』七一五号、二〇七六—二〇七七頁、明治二十四年

(三九)「結核病治療法に関する報告」『大日本私立衛生会雑誌』九九号、六三〇—六四六頁、明治二十四年

(四〇)「アプネル：免疫論」『東医新誌』七一三号、一九五五—一九六〇頁、七一四号、二〇〇八—二〇一一頁、七一五号、二〇五一—二〇五八頁、七一六号、二一〇二—二一〇六頁、明治二十四年、七二〇号、一一五一—一七頁、七二二号、二〇一一—二〇四頁、七二四号、二九四—二九八頁、七二六号、三九八—三九九頁、明治二五年

(四一)「インフルエンツアノバチルス」『東医新誌』七二七号、四五八—四六〇頁、明治二五年

(四二)「第一一回内科学会」『東医新誌』七五二号、一五七八—一五八二頁、七五七号、一八〇九—一八一頁、明治二五年

(四三)「ペッテンコーフェルノ大勇」『東医新誌』七七二号、八六頁、明治二五年

(四四)「黴菌蛋白質ノ『ツベルクリン』反応」『中外医報』二八七号、二三四—二三七頁、明治二五年

(四五)「血清ノ殺黴菌血球溶解及解毒作用」『中外医報』二九三号、五八一—五八三頁、二九五号、六九三—六九七

頁、二九六号、七五六—七五八頁、二九七号、八一三—八一六頁、明治二五年

(四六)「病原的原虫論」『中外医報』二九八号、八五一—八五四頁、三〇〇号、九七九—九八二頁、三〇一号、一〇四五—一〇四八頁、明治二五年

(四七)「ペッテンコーフェル氏(最)(新)虎列刺説」『東医新誌』七七二号、七八—八〇頁、七八二号、五一—五二頁、七八五号、六四六—六四七頁、七八七号、七四二—七四四頁、七九二号、一〇〇三—一〇〇六頁、七九三号、一〇五二—一〇五三頁、明治二五年、七九七号、一八四—一八四三頁、七九九号、一九二—一九三頁、八〇三号、二一〇三—二一〇四頁、八〇五号、二一八九—二一九一頁、八〇六号、二二三—二二四頁、明治二六年

(四八)「ストリユンペル：医学上ノ点ヨリ亞爾個保爾ヲ論ズ」『東医新誌』八二三号、二八一—二九頁、八二五号、一一—一三頁、八二六号、一六〇—一六二頁、八三〇号、三三三—三三五頁、八三三号、四六八—四七一頁、八三六号、五六五—五六七頁、明治二七年

(四九)「エンメリヒ：格魯布性肺炎ノ感染免疫及治療法」『中外医報』三四五号、九〇—九〇五頁、三四六号、九七五—九七八頁、三四七号、一〇四—一〇四五頁、三五一号、一三〇—一三〇六頁、明治二七年

(五〇)「ペッテンコーフェル翁ト黴菌学ノ關係」『済生学舎医

事新報」二六号、一四二—一四三頁、明治二八年

(五一)「血清療法ニツイテ」『済生学舎医事新報』二七号、二七—二八頁、明治二八年

(五二)「普通大腸菌ノ性質」『済生学舎医事新報』四七号、一〇五—一〇五八頁、明治二九年

(五三)「牛乳ト煮沸セル乳汁トノ鑑別法」『東医学会誌』一一卷二二号、一〇三—一〇六頁、明治三〇年

(五四)「台湾旅行談」『東医学会誌』一二卷一〇号、四六四—四六九頁、明治三一年

(五五)「万国衛生及ヒ」『デモグラフィイ』会ニ就テ」『国家医学雑誌』一三〇号、一一六頁、明治三一年

(五六)「台湾衛生について」『済生学舎医事新報』七三号、五七—六六頁、明治三二年

(五七)「飲食物取締法に就て」『京都医事衛生誌』七四号、三一—六頁、明治三三年

(五八)「微生物学的可検材料の採取と運搬の方法」『京都医事衛生誌』八七号、二四—二七頁、八八号、二二—二三頁、明治三四年

(五九)「ペッテンコーヘル先生の伝記と逸事」『京都医事衛生誌』八八号、二五—二八頁、明治三四年

(六〇)「ペッテンコーフェル先生の伝」『公衆衛生』一五号、一一—一六頁、明治三四年

(六一)「バクテリオリジンとヘモリジンに就て」『京都医事衛生誌』九五号、七一—八頁、明治三五年

(六二)「日本の暖室法」『衛生談話』二四号、三一—四頁、明治三六年

三六年

学会発表、講演、公開講義(一部前稿既掲)
明治二〇年(一八八七)

(一)一月二〇日 「蛸のプロトマイン実験説」 集談会

明治二一年(一八八八)

(二)五月二四日 「食物試験報告一斑」 東京医学会例会

会

(三)六月二二日 「黴菌染色法」 国政医学会例会

(四)六月二八日 「食物調査第二報告」 東京医学会例会

会

(五)九月二日 「味噌の説」 東京医学会總會

(六)九月二七日 「脚氣と家屋の關係」 東京医学会例会談話会

会談話会

(七)九月二八日 「牛乳試験法」 国政医学会例会

明治二二年(一八八九)

(八)二月二四日 「大学構内下水実験成績」 東京医学会例会談話会

会例会談話会

(九)三月三日 「未詳」 足利衛生学会

(一〇)三月二四日 「榎の実」 東京医学会例会

(一一)四月二五日 「『テタヌス』の説」 東京医学会例会

(一二)五月二三日 「餅の消化試験」 東京医学会例会

(一三)六月一五日 「未詳」 順天堂医事研究会

(一四)六月二七日 (粥汁の分析) 東京医学会例会

(一五)十一月二六日 (未詳) 順天堂医事研究会

(一六)十一月三〇日 「日本菓子の説」 大日本私立衛生会

例会

(一七)十二月二〇日 「塵埃吸引病」 国政医学会

明治三年(一八九〇)

(一八)三月一日 「腺の説」 順天堂医事研究会

(一九)四月二日 「家屋衛生」 第一回日本医学会

(二〇)四月一〇日 「菓子の説」 東京医学会例会

明治五年(一八九二)

(二一)四月 「血液中免疫及治癒物質の本性について」

て」 ドイツ内科学会(エンメリヒ・坪井)

明治六年(一八九三)

(二二)九月 「コレラの亜硝酸中毒説について」 第

一回万国医学会(ローマ)

明治七年(一八九四)

(二三)九月五日 田原良純(内務省衛生試験所長)の「ふ

ぐ毒素発見説」を代説 第一回万国衛生会(ラダベ

スト)第七部飲食物部会

明治八年(一八九五)

(二四)「(月日不詳) 「病的黴菌の毒性を長く保つ法」 東京

医学会例会

(二五)二月一七日 「血清療法に就て」 済生学舎校友会

(二六)二月二二日 「免疫及血清療法の理論」 国家医学

会例会

(二七)四月一日 「家猪丹毒病免疫及予防接種法」 大

日本私立衛生会例会

(二八)五月二日 「血清療法」 濃飛私立衛生会春季大

会

(二九)九月一六日 「栄養物及び飲食物検査法」 大日本

私立衛生会衛生事務講習会

(三〇)九月二九日 「済生学舎卒業式に於て」 済生学舎

卒業式

(三一)十二月二〇日 「血清療法の一斑」 国家医学会例会

明治九年(一八九六)

(三二)一月二六日 「パストール氏の伝」 済生学舎校友

会

(三三)二月二〇日 「衛生学大意、營造物及飲食物検査法

大意」 大日本私立衛生会衛生事務講習会

(三四)三月八日 「第四回内国勸業博覧会出品製造及貯

蔵食品並飲料審査の概要」 大日本私立衛生会例会

(三五)四月六日 「黴菌学器械の『デモンストラチオン』」

東京医学会総会

(三六)四月二日 「医学外の黴菌応用について」 大日

本私立衛生会総会

(三七)四月一三日 「市の衛生に対する希望」 大阪私立

衛生会総会

(三八)四月二六日 「芽生黴菌における近今研究の結果」

東京顕微鏡学会講習会

(三九)六月七日 「胃の生理について」 順天堂医事研究會

會

(四〇)六月二日 「普通大腸菌の性質」 済生学舎校友會

(四一)九月二六日

「微生物培養基の製造法について」 東京医学會例会

明治三〇年(一八九七)

(四二)三月

「衛生学大意、营造物検査法大意」 大日本私立衛生会衛生事務講習會

(四三)四月五日

「丹毒血清の製造法及使用法に就て」 東京医学會總會

(四四)四月一日

「熱帯氣候慣化問題に就て」 大日本私立衛生会埼玉支會總會

(四五)六月二五日

「万国衛生及び『デモグラフィ』會に就て」 国家医学會例会

明治三二年(一八九八)

(四六)一月二〇日—四月五日の内

「衛生学大意及工業衛生学」 大日本私立衛生会衛生事務講習會

(四七)五月二六日

「台湾旅行談」 国家医学會例会

(四八)七月五日

「内容不詳『台湾旅行談?』」 東京医学會例会

(四九)一〇月

「血清療法」 東京顕微鏡院講習料

(五〇)一〇月

「工業衛生学」 国家医学會講習會

(五一)一〇月三〇日

「台湾の衛生に就て」 済生学舎校友會

(五二)一二月三日

「台湾の衛生」 台湾協會

(五三)二月二五日

「菓子と消化器病」 胃腸病研究会

(五四)一月二四日

「ペストに就て」 京都府教育會主催

ストに関する談話會

(五五)年月日不詳

「微生物講義」(『公衆衛生』一号より)

明治三三年(一九〇〇)

(五六)四月二四日

「飲食食物取締法に就て」 京都府医学會總會

明治三四年(一九〇一)

(五七)四月一九日

「『バクテリオジーン』及『ヘモリジン』に就て」 京都府医會總會

(五八)五月一二日

「微生物学的可検材料の採取と運搬の方法一般」 京都衛生検査所開所式

(五九)六月九日

「ペッテンコーヘル先生の伝記」 京都府衛生會總會

(六〇)月日不詳

「伝染病予防の方針」 京都府衛生會天田郡支部總會(『公衆衛生』八号より)

明治三五年(一九〇二)

(六一)四月二六日

「都会民衆の衛生」 京都府衛生會第四回總會

(六二)五月一七日 (発酵酵素に就て) 京都医事会

(六三)七月一六日 「コレラ予防談」 京都府衛生会主催

コレラ予防に関する談話会

(六四)一〇月二二日 「黴菌図譜に就て」 京都医事会

(六五)一二月一二日 「脾脱疽菌、鶏虎列拉菌、豚丹毒菌に

就て」 京都医事会

明治三六年(一九〇三)

(六六)二月二日 (ペスト及虎列拉の予防に就て) 京都衛

生組合幹事会(討論?)

(老人保健施設 陽翠の里)